新大広報

特集
ふるさと学びの故郷を
旅立ち新たな道へ

学長からのメッセージ
CAMPUS INFORMATION
第59回卒業修了制作展
卒業生重大(10大)以上News
Photo Memory
卒業、大学院修了を祝して

今年は、21世紀に入っての10年が過ぎ、次の10年の幕開けと言ったまでは踏み出す年でございます。まず21世紀に始まる皆さんの方々には、世界的な環境変化、総合情報、オールド化、食糧問題、世界平和の維持、新興国への影響、さらに高齢化社会等による将来への不安など、克服しなければならない多くの課題があります。皆さんには、そのような課題解決の担い手として、それぞれの分野で貢献してほしいと願っています。皆さんの努力によって、これまでにない新たな考え方、新たな仕組み、新たな価値の創造が期待されています。このように皆さんには、多くの可能性が開かれておりますが、何よりも大切なことは、またも「自分」という枠組みを守り、常に学ぼうとする努力を心掛け、実行することだと思いまして、皆さんの大切な人生のはじまりを祝っております。

退任・退職を祝して

退任・退職される教職員の皆様には、永年にわたる本学に勤務され、それぞれのお立場にて、献身的にご尽力いただきやせていただきました。心からの敬意と感謝の意を表するとともに、メでたく退任・退職されることに、お祝いを申し上げます。

近年の国立大学をめぐる環境は、激動の時代であるといえます。特に、7年前の法人化施行等、数々の困難な課題が立ち上がまってましたが、皆様の配慮とご協力を頂きまして、国立大学法人新潟大学は波乱な発展をみております。国立大学を取り巻く環境は変わりつつ難しい状況が続いていますが、新潟大学は、その使命である教育・研究・社会貢献活動の一層の充実と高度化に努め、世界に存在感を発揮する大学を目指してまいります。皆様におかれましては、これからも本学に対する愛と寄りかねる支援頂けるといאגい申し上げます。
卒業・修了する学生

大学には残るけれど…

人文学部

行動科学課程

大橋 麻由

教育人間科学部

菅原 諒

小窪 美里

経済学科

金澤 豊

高橋 諒

文学部

宇野 由香

皆川 美和

国際関係学科

渡辺 雅子

竹内 亮太

哲学部

小池 勇樹

大学院 教育学研究科

高柳 美奈

大学院 保健学研究科

千葉 映

大学院 国際文化政策研究科

阿部 隆

大学院 国際関係研究科

藤井 隆

大学院 歴史文学研究科

鈴木 貴子

大学院 理学研究科

武藤 浩二

大学生活を振り返ると、教育実習やボランティア、部活、研究、そして教員採用試験を命懸けでやらなかった4年間で、充実していて楽しい大学生活だった。そんな簡単な実験で4年間を経てしまうが、そのように思えることは大切なことだと思っている。

私の大学生活の中には、たくさんの友達がいて、一緒に時間を過ごしたり、夜遅くまで話しをしたり、楽しくお酒を飲んだり、授業の演出などで新しい発見ができたり、わくわくする素晴らしい思い出がたくさんある。大学生活は、私の人生を豊かにしてくれた大切なものだ。今後もこれを大切に存分に活用し、社会に貢献したいと思う。

卒業を控えていますが、今後とも、大学で培った能力を活かし、社会で活躍することを願っています。
新潟大学を卒業するにあたっての思い

新潟大学で4年間毎日が楽しく充実していて、とても早く過ぎていくような感じです。しかし、ゼミやアルバイトなどの様々な活動を通じて自分が成長できることが何の意義をもつかを知ることができました。また、近所の住民、学生、教員からも、大学生活の面白さや価値を認識してもらうことができると思います。

卒業するにあたって

大学生活はとても豊かで、様々な経験や人間関係を経験することが多かったと思います。今後も大学生活での経験や人脈を活かして、社会に貢献したいと考えています。
卒業するにあたって

医学部
保健学科 髙倉 美和 MINAKAWA Miwa

もう卒業するとと思うと、本当にあっという間の4年間でした。この4年間で、看護についてたくさん学び、自分自身としても成長することができました。

もちろん大学生活は、勉強だけでなくアルバイトや友人との過ごし、地域など、とても充実した日々となります。サークルには入っていませんでしたが、たくさんの友人と楽しい時間を過ごすことができ、今考えると非常に感謝しています。

卒業という節目を迎えるにあたり、思い直しや時短を含めていただく家族、地元の方々には、心から感謝の意を表します。これからも一生懸命に学び、研鑽を重ねて、皆様に感謝の意を述べたいと思います。

工学部
機械システム工学科 竹内 那央人 TAJIKI Masato

入学する前は、大学の4年間という時間をとても長いものだと思われていました。しかし、実際に大学生活を履いてみると、学びをはじめ、サークル活動やアルバイト、就職活動など様々なことを経験し、その道の旅ができたと思います。

サークル活動やアルバイトでは、年齢や考え方の異なる人々とのコミュニケーションを経験することができ、今考えると非常に貴重な経験になったと思います。また、大学での学びは、自分自身を磨き、新たな視点を持つことを学びました。

卒業という節目を迎えるにあたり、多くの人達に感謝の意を表したいと思います。皆さんに、心より感謝の意を表したいと思います。

歯学部
口腔健康学科 須賀 雅子 TAKAHASHI Masako

私が大学生活に感じたのは、今まで過ごしてきた中で一番早い4年間でした。大学で学び、友人と過ごすことができ、新しい環境で新しいことを学ぶことができました。

卒業という節目を迎えるにあたり、多くの人達に感謝の意を表したいと思います。皆さんに、心より感謝の意を表したいと思います。

農学部
生産環境科学科 小泉 勇樹 KOIWA Hiroyuki

卒業するにあたって

大学4年間は本当に良かったと思っています。特に印象に残っているのは、学びの楽しさです。

2年次コース選択では、野生動物学のほうが特徴のある自然環境科学コースを選択しました。特に3年の夏休みに、特別な場所で動物観察を行いました。習い事の中で、特に動物観察は大変でした。しかし、自分自身を磨き、新たな視点を持つことができました。

卒業という節目を迎えるにあたり、多くの人達に感謝の意を表したいと思います。皆さんに、心より感謝の意を表したいと思います。
修了にあたって

Takahashi, Masa

私は、大学院の2年間で自らの成長に驚く多くの経験をすることができました。学部4年次から11月に至るまで、学術的な研究活動を通じて、大規模なプロジェクトに携わることができ、その経験は大変貴重でした。 herausセミナーで活躍したメンバーとの仲も深まり、人生の経験を豊かにすることができました。

また講義を担当していた私も、その中で、大学生院生が大学院生としての生活を経験することの重要性を理解することができました。大学院生の生活をリポートに取り組むことで、大学院生の生活を理解する機会を得ることができました。

卒業、そして未来へ

Akaru, Aki

私は今春、3年間の学生生活を終える。この多くの月を学びに費やすことは可能でしたが、今までにない経験を積むことができました。今後、新たな挑戦に臨むことが多く、自分自身を成長させることを目標に活動を続けていきます。

新潟大学を修了するにあたって

Yamanaka, Satoshi

卒業式の準備を進めていく中で、一人の学生として感謝の気持ちを込めて考えることができました。今後、新しい道を歩むことが多く、大学院生としての経験を活かしていきたいと思っています。

新潟大学を修了するにあたって

Matsui, Atsushi

卒業式の準備を進めていく中で、一人の学生として感謝の気持ちを込めて考えることができました。今後、新しい道を歩むことが多く、大学院生としての経験を活かしていきたいと思っています。
感謝を込めて

西脇学総合研究科 修士課程 鈴木 貴子

大学院

私たちの大学院生活は、学びの旅の始まりです。それぞれの分野で、新しい知識を追求し、自分自身を磨く機会を Nose が提供してくれます。ここでは、コミュニケーションの重要性を学び、何かに取り組む際には、相手の立場も考えることが求められます。大学院生活は、新しいアイデアを生み出す場でもあり、自らの思考力を伸ばす機会でもあります。

新潟大学を修了するにあたって

武藤浩二

技術経営研究科

大学院

私の新潟大学の教員生活は、昭和54年4月に教務局に就任した時から始まった。当時は大学院生数も200人越えの時代で、教務局の役割も大学全体の一体化に伴い、4人採用となり、私もそのうちの一人で当時、教務局は学生の指導も含む、専門課程に続く、2年生に専門化を図るための英語を教え務めた。当時は「英語」が主で「英語」はあまりなかった。当時の英語の指導とは毎年スキーに行いため、そのスキーは今なお残っている。平成2年8月教務局に私たちは教務局に移った。教務局時代は教務局時代の延長にあることであり、私の専門は弁護士でありながら、研究室を用いた実務に参加していた。当時教務局は教務局時代以上に、大学院生の選抜と、教員を養成するために、かつての教育課程に伴う事項が発展した。教員の職務も、学生の指導を含む、学んだことを教えることが求められる。

新潟大学を退任するにあたって

高橋 正平

人文社会・教育科学系（文学部）教授

退任する教員

12 人文学科・教育科学系（人文学部）教授

高橋 正平

人文社会・教育科学系（文学部）教授

近藤 聡子

人文社会・教育科学系（文学部）教授

田村 彩

人文学科・教育科学系（文学部）教授

常木 正弘

自然科学研究科（理学部）教授

宿石 雅隆

自然科学研究科（理学部）教授

宮崎 正弘

日本哲学研究所・京都哲学研究所研究員

国友 清

日本哲学研究所・京都哲学研究所研究員

元新潟大学文学部文学教育学コース准教授について、

文学を教えることになったのは、文学部で
あり、その意味で最も詩と自然を教えてきた
文学部の学間でも、詩を教えることもあり、
学びの授業を含む。נוע wrongdoingを含むことは非常にあり得た。平成14年4月
からは文学部に移ることになった。英文学専門の私が本当に英
長ことお世話になりました

本文の内容は、長年にわたり、学びの旅を続けることを希望し、教育研究を目的とされている団体について詳しく説明しています。特に、艺术教育の重要性を強調し、その役割と成果について述べています。

すばらしい教育研究環境の中で

本文の内容は、教育研究環境について詳しく説明しています。特に、研究環境の重要性とその役割について述べています。また、具体的な例を通じて、教育研究の意義と価値を説明しています。

新潟大学を去るにあたって

本文の内容は、新潟大学の卒業を決意した理由について説明しています。特に、大学での学びの成果とその影響について述べています。また、大学への感謝の気持ちを述べています。

退職にあって思うこと

本文の内容は、退職にあたって思うことについて説明しています。特に、退職後の活躍について語り、その意義と価値を説明しています。また、退職後の生活についての考え方も含まれています。
言葉のわかるコンピュータを目指して

自然科学研究科（工学）教授 宮崎 正弘

私は1989年に新潟大学において、コンピュータ学習を実現することを目指し、新しい検索・選択処理に基づく自然言語処理システムの研究を進めました。その結果、言語と機械の相互構造を用いる日本語接続研究とそれに支えられる言語処理技術のための基礎研究を進めてきました。これらの成果を基に、自然言語処理システムの新たな研究を行います。新潟大学では、コンピュータ学習の研究を拡大し、自然言語処理システムの研究を専門に扱っています。

退官にあたって

自然科学研究科（大学院自然科学研究科）教授 藤原 秀隆

新潟大学は自然現象を研究するために、大学院自然科学研究科教授として新潟大学に退官してから14年が経ちました。仕事の中での課題に取り組みました。この4年間で、私が担った研究の成果をご紹介します。研究の中心は、自然現象の解明とその応用研究です。これにより、自然現象の理解が深まり、社会の発展に寄与できるものに貢献することが可能になりました。今後も、自然現象の研究を深く進めることを心掛けます。

新潟大学を退任にあたって

自然科学研究科（大学院自然科学研究科）教授 澤田 清

1977年5月に新潟大学を退任しました。これは日本大学における、私は14年間の教員生活でした。新潟大学の大学院は、自然現象の解明とその応用研究としての研究を進めています。このような研究を通じて、自然現象の解明とその応用研究を進めることを心掛けます。
「蓮華」
伊藤絵里

制作室場：私は今春植物を観る雑誌が出版されたのですが、その中でも蓮は3年ぶりに描いてきたもので、モチーフに選びました。蓮の花を見ると非常に清らかなイメージが浮かび上がり、この花の美しさを日本画で表現したと思いました。言葉を借りて、絵の部屋を墨に、何回か墨を重ねることで全体の雲取を構えました。特に花の模様に見事に、優雅に色を重ねて落ち着きのある絵をしました。

「うたたね」
清田千夏

制作室場：「生きている」ということなんだろうかと考えながら描きました。好意的に生きたものへの執着心を持ったかずかしさに似たものを描きます。また、好意にとられていても、愛しいところを所詮はすべきです。また、植物たちが受け入れた語路にあるだけの色を、生命感を持たせた木と花を描きたいと願っています。言葉の力で、美しいものは存在すると思います。 FIN

「凛と咲く」
深尾絵里香

制作室場：あるのは日本の花を連想させた2年生のことから始まりました。最も大切に大切な花を育むのがうれしいです。花は、その美しさに、僕らに何かを示唆するものでした。花を咲かせた瞬間、花の魅力を感じた瞬間、そして無数の色に驚きました。この作品を身に着けることができました。

「誰が紡ぐもの」
鈴木貴子

制作室場：この作品はある人に会いに行かなければ皆無のもの。その人が関わってしまったから、その色であることが出来て、色の色で身体が構成されています。その中に役立つよう、ある光景の会場で描くことです。違った点は、ある花を感動させるべきです。でき友人に代わる魔術（言葉）や言葉の協力の指揮で数年も、特に本当の心を極めて楽しめた時間とともに制作することができました。FIN
「時間の記憶」
母 貴雄
制作意図：新緑が広がる時に、美しい海を眺めて日々の生活に起こる、さまざまな体験が織りなられていて、大きなことは時に目立っていた。私の作品はこの足を思い出して瞬間的に反応する展覧会を表現している。ときに、日本で感じたもので表現したものを融合し、真実と感覚の世界の組み合わせてきた。不調和で、無力な自分の意識的意図を表す物で、不具合した点・作品の一部は焼き粘土ですので、接触、変化は大変です。

「自由帳」
茂木 亮衣
制作意図：この作品は「散らかしのアート」をテーマに制作しました。様々な形をした木を手にすることによって、紙や木、写真が含まれた内容によりもある物を「モニ」としてのものに見せることを意図しています。情報がなくなる「デジタル」としての意味があると言われていますが、それを触れておけば何でも可能です。言語なしの「ブロックデザインの構築」ではないので、あえて提示を諦めながらも、新たな形をとるよう心掛けました。

「RIN」
鈴木 英栄
制作意図：木のカウンターの設置に始まり、その後の形をモチーフにアートワークを作成しました。木の使いこなしが生み出す様々な感情の表れは、美しさを追求しています。数々のルールに基づきながらも自然の形を尊重することで、その心地よさを表現することを目指し、重箱感のないブックナイトに仕上げました。

「二度だかたち」
黒崎 邦彦
制作意図：長い年月を経て作られた廃棄品、その散逸空間に居かごに掲げ、生きた時間と生命感、繊細な断片がつながり、ゆっくりと収集し、細かく表面を思い出す感性を提供するもので、時と時の感性を表現したいでした。各作品は製作の場やその美をつくり上げる手つきにこだわった製作に積極的に参加し、発想を増幅し、発想し、発想してきました。

「煩悩寺の変」
小玉 理恵
制作意図：「私を含む日本人はなぜ仏像を意識せずとも仏像に触れるか」という疑問にかかわった。仏像の身が付く感（美についての表現）にかかわったので、一人ひとりの仏像を表現することは言葉なき誠心ことや挨拶の数を増やすことを心掛けました。仏像や仏像に Vikingsの心が向かうべき道を思って、製作に心が動いてきたなどが伝わる作品でした。

「vision #1 #2 #3 #4」
手塚 千寿
制作意図：今までの集大成として、“年輪の再構成”をコンセプトに発想を思いつきました。4つの作品にはそれぞれ「光」を核に「光と影」で、有形の形を解体し、再構成することによって、光との調和、そして、自分の感情を表現しようとした作品です。

言葉が足りない物に、カタチや動かせないような展示を見極めました。
卒業生以上

重大
News

平成19年度から20年度の4年間にわたったニュースを紹介します！もうそんなに経った？ということから「あった、あった」ということで、様々な出来事をピックアップ！

0
合宿紹介
新設された？

1
平成19年
入学式
矢勢メディカル学園

2
平成19年
祭校

3
いろいろ部活動やサークルに目を引く

4
平成19年
五十嵐キャンパス内にLAWSONオープン！

5
平成19年
新大学
ほぼ全ての学園町

6
新潟大学ブランドの日本酒
「新酒特別」発売

7
新潟大学独自の学生支援プログラム
「ダブルホーム」開始！

8
平成20年
国際大学初イメージング
「耳をすませて吹く」

9
新潟の学生連帯を支援！
「地域交流プロジェクト」発足

10
平成21年
五十嵐キャンパスで教科前の
授業が行われ、在学生も出席！

11
平成21年
創立80周年
記念事業を開始

12
平成21年
新潟市内で68年ぶりの大雪

13
平成22年
学生がデザインした新正門完成！

14
平成22年4月・H23年1月
アカペラサークルノーナイズ
大活躍！

～入学から卒業まで、学生生活で
見た、感じた、かけがえのない
時間を取り戻して～

何もかも初めてに感じた、
大学生活のスタート

学んで、遊んで、悩んで、
楽しかった日々

いつも仲間と何気ない日常を過ごした学舎

それぞれが、それぞれの道のりへ…
新潟大学キャリアセンター

CANシステム

社会の先輩としてのアドバイスをお聞かせ下さい!

「CANシステム」は、在学生が卒業生に就職活動の相談ができる、また卒業生の方からも在学生への社会の現状や、働くことのやりがいなど、生の話を伝えられるシステムです。先輩からのアドバイスは、厳しい雇用環境の中で不安な気持ちで就職活動に取り組む後輩たちには、心強い支援になります。

卒業生の皆さんには、本システムの趣旨をご理解いただき、ぜひご登録をお願いします!

ご登録はとてもカンタン!
「新潟大学 CANシステム」で検索、または、下記URLからご登録ください。
http://www.career-center.niigata-u.ac.jp/jobnetwork/
※システムを経由するので、お互いの個人情報（氏名、メールアドレス等）を公開せずに安心してご利用いただけます。
（お問い合わせ先）新潟大学キャリアセンター　TEL:025-262-6087

【新大広報 Back Number】
http://www.niigata-u.ac.jp/adm/c_forum/index.htm
新大広報のバックナンバーは上記のURLから見ることができます。また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。